

平成 27 年 7 月実施 生徒による授業評価 まとめ

木曽青峰高等学校

本校では、7月に、全生徒に対し、全職員・全講座に関する「授業評価アンケート」を無記名で実施いたしました。座学用・実習を伴う科目用などの4種類のアンケート用紙を作成し、実施しました。それぞれのアンケート用紙に6項目の調査項目と記述部分を設けました。

座学用アンケート項目6項目・実習を伴う科目用アンケート共通の3項目の全日制・定時制を合わせた結果は下記の通りです。

単位は全て%、カッコ内はH26年度

【座学中心の科目用授業アンケート結果】・・・・・4009 件				
Q 1. 授業に意欲的に取り組んでいますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
31.1(29)	32.5(32)	33.5(36)	2.3(3)	0.6(0)
Q 2. 授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
31.4(30)	31.9(32)	29.4(31)	5.9(5)	1.4(1)
Q 3. 問いかけや小テストなど理解を確かめながら授業が進められていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
27.2(28)	26.4(26)	39.5(39)	5.4(5)	1.5(1)
Q 4. 授業の難易度は適切ですか。				
①難しい	②やや難しい	③ちょうどよい	④やや易しい	⑤易しい
4.3(5)	19.3(22)	74.8(71)	1.3(1)	0.3(0)
Q 5. 授業の進む速さは適切ですか。				
①速い	②やや速い	③ちょうどよい	④やや遅い	⑤遅い
2.3(2)	14.4(14)	79.4(79)	3.5(4)	0.5(1)
Q 6. 課題の量は適切ですか。				
①多い	②やや多い	③適切である	④やや少ない	⑤ない
2.6(2)	7.0(8)	69.0(73)	1.7(1)	19.7(16)

【実習中の科目用授業アンケート結果】・・・・・2157 件				
Q 1. 授業に意欲的に取り組んでいますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
46.6(38)	30.0(28)	22.2(33)	1.1(1)	0.02(0)
Q 2. 授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
43.4(36)	31.3(26)	22.6(35)	2.7(2)	1.0(0)
Q 3. 技術の習得など理解を確かめながら授業が進められていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
38.6(33)	31.5(29)	26.4(36)	2.7(2)	0.8(0)

なお、以下に各教科の分析内容と授業改善の方向性についてまとめました。

生徒による授業評価 各教科のまとめ【全日制】

1 分析した内容（教科毎の集計と個人の集計の比較、自由記述から等）

教科	ま と め
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業に意欲的に取り組んでいるか」という質問に対して、ほとんどが「普通」以上になっている。「そう思う」と答えた生徒が昨年より5%多く、意欲的に取り組んでくれていると思う。 ・「授業がわかりやすく充実したものになっているか」の質問に関しては、3%の生徒が「あまりそう思わない」と答えている。昨年と同じ人数である。古典の文法など、わかりにくい面があるのではないかと思われる。それは「難易度」の質問でも同じで、ほとんどの生徒が「ちょうどよい」と答えているが、「やや難しい」「難しい」と答えている生徒も少なからずいる。 ・「課題の量」については「ない」と答えている生徒が17%いるが、昨年の反省と同様、自主的にやるように与えている問題集などを、生徒たちは課題とみなしていないようである。
地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・どの質問に対しても、ほぼ前年度と同じ割合の回答が得られていることが分かった。 ・授業への意欲関心に関しては、およそ7割弱の生徒が意欲的に取り組んでいることが分かった。 ・「問いかげや小テストなどを行っているか」という質問に対して、約5割の生徒が「そう思う」、約1割の生徒が「そう思わない」と回答している。 ・授業の難易度は、「ちょうどよい」と答えた生徒が約7割、「難しい」とした生徒が約3割であった。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別なので、各講座で質問への回答の割合は異なる。講座ごと必要な内容を取り入れていきたい。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業に意欲的に取り組んでいるか」という質問に対して「そう思う」が若干少ないのは理科離れが原因であろうか。必要性の感じ方が意欲につながっている可能性がある。 ・授業の難易度や進む速さは適当である。
保健体育	<p><体育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる生徒（質問に対し、「そう思う」「ほぼそう思う」）が8割を超えており、生徒が自ら取り組む姿勢が強い。 ・準備体操など安全への配慮への回答の「そう思う」の割合が低下しているが、「ほぼそう思う」と回答した割合も高いので、おおむね安全への配慮がなされているといえる。 ・実技の量は、適切であると考えられる。 <p><保健></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ・関心や意欲を高められる授業ができています。 ・生徒が感じる「授業の難易度」は「ちょうど良い」と回答した割合が9割あり、生徒は適切と感じている。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業に意欲的に取り組んでいるか」という質問に対して、9割の生徒が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答しており、生徒の授業に対する積極的な姿勢が見受けられる。 ・「授業の難易度」では、6割の生徒が「普通」と回答しているが、「授業の進む速さ」では9割の生徒が「ちょうどよい」と回答している。「普通」と回答している生徒の中には授業の難易度が自分にとってどの程度なのかをわかっていない生徒もいるのかもしれないと感じた。 ・「実技の量は適切ですか」という質問に対しては、教員は実技の量が少し多いと感じていたが、9割の生徒が「適切である」「やや少ない」と回答している。

外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業に意欲的に取り組んでいるか」「授業が充実したものになっているか」などの質問に対しては、昨年度同様否定的な意見は少なかった。 ・授業の難易度、授業を進める速さについては意見が別れたが、3年生に「やや難しい」「やや速い」という意見があった。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の難易度は適切ですか」という質問に対し、「そう思う」と回答した生徒が4%とかなり少なかったが、「普通」と回答した生徒が9割近かった。「普通」をどうとらえれば良いか難しいが、難易度が生徒の実態から大きく外れているということは無いと考える。 ・「授業に意欲的に取り組んでいるか」「授業は充実したものになっているか」「理解を確かめながら授業が進められているか」「授業の難易度は適切か」という質問には「そう思う」「ほぼそう思う」の回答の割合が昨年度より少なかった。生徒に学習意欲や興味関心を持たせるような工夫が必要であると感じた。 ・「実技の量は適切ですか」という質問に対し、「少ない」と回答している生徒が2割おり、記述欄でも実習を待ち望んでいる生徒が多かった。適切なタイミングで実習を実施すると共に、座学の内容もより充実させていきたい。
森林環境	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に昨年に比べ生徒の中で意欲的に学習に取り組んでいる傾向が見られる。 ・「理解を確かめながら授業が進められていますか」「授業の難易度は適切ですか」という質問に対して、授業の進む速さや実技の量が適切と評価されていることは、授業を企画する面で良かったと考えられる。 ・「授業はわかりやすく、充実したものになっているか」という質問に昨年は「普通」の評価が多かったが、今年は「充実したものとなっている」評価が多くなり良かった。
インテリア	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に昨年に比べ生徒の中で意欲的に学習に取り組んでいる傾向が見られる。 ・実習を伴う授業評価は、各項目とも比較的高く良好と思われる。しかし、中には集中力や積極性に欠ける生徒もおり、分析しづらい部分もある。 ・座学、情報で「意欲的に取り組んでいますか」「興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか」という質問に「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた数値が昨年より高く、授業の工夫や生徒の興味関心を引き出す工夫が必要ではないかと考えられる。

2 今後の授業で改善したほうがよい点等

教科	ま と め
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は理数科・普通科・専門科と3つの科があり、それぞれに適した授業のやり方を常に考える必要がある。それぞれの科において、生徒が興味を持って取り組める教材を選択したり、補助教材を工夫したりしたい。また適宜「確認課題」に取り組ませたり、発問のしかたを工夫するなど常に生徒の「理解度」を把握し、次の授業の展開を考えるようにしたい。 ・最近の傾向としてアクティブラーニングが言われており、科に関係なくこれを少しずつ取り入れていく必要がある。その際も3つの科の特色を踏まえたものにしなければならない。

地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での問いかけや小テストを行うことで、生徒の授業への興味関心や集中力を高めたり、知識の定着をはかったりすることが今後必要である。（特に地歴公民科目を暗記教科だ、苦手だ、と感じている生徒に対して、そういった働きかけが必要である。） ・授業の難易度は、大多数の学習状況に合わせながら授業を進めていきたい。しかし、約3割の難しいと感じている生徒のためにも、個々で質問を受け付ける、考査前の補習を行うなど、授業外でのサポートを行うことで、地歴公民科に対する苦手意識を払拭させていきたい。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が言われたことをやるのではなく、自発的な学習を行えるように、興味関心を引き出す内容を取り入れていきたい。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問いかけや小テストなどが他教科に比べ少ないようである。生徒の理解度を確認することが必要となる。しかし、単位時間数が不足しており実験や問題演習もできていないのが現状である。
保健体育	<p><体育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意欲は高いので、その期待に応えられる授業を行うこと。 ・準備体操など安全に関する配慮が、教員だけが行うのではなく、生徒自らが配慮できるように知識や働きかけを行っていくこと。 <p><保健></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での理解を確かめるような活動を取り入れる。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでと同様、知識、技術の定着を確認する場を設定していきたい。 ・自由記述欄には前向きな記述が多かったので、それに答えられるよう教材研究をしていきたい。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の理解の度合いを確認しながら、授業をすすめたい。 ・双方向の授業となるよう、問いかけを増やし、生徒が英語を発する場面をできるだけ作る。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲や興味関心をより引き出せるよう、実習はもちろん座学の授業展開や教材の工夫もしていきたい。 ・実習の計画（時間数、提出のメ切等）を早め立て、生徒にも授業の見通しが分かるようにしたほうがよい。
森林環境	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味関心、学習意欲をさらに高める授業の工夫や研究。 ・授業中の安全確保に注意を払いたい。 ・科会での打ち合わせの充実、職員同士の学習内容の共有化。
インテリア	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の量について内容等の検討。 ・生徒の興味関心、学習意欲をさらに高める授業の工夫や研究。

3 その他、教科会で出た意見

教科	ま と め
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べわずかではあるが良い面の割合が増えた。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・難易度の「ちょうど良い」が増えているのは、新課程で中学での理解度が増しているか、現状を普通と思っている生徒が増加しているか、どちらかと考えられる。
保健体育	<p><体育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技の量が適切であるという評価であったが、運動量を上げられるように練習時に大きな移動や動きができるように工夫する。 ・開始時間が遅れないように、声かけをしていく。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自由記述欄は生徒の要望などを知ることができるので、とても有用である。

森林環境	<ul style="list-style-type: none"> ・実習などの安全面については常に生徒への配慮を怠らないようにしたい。 ・特に実習での服装（特に安全帽や作業帽の着用）や安全な機械操作器具操作、（チェーンソー、刈り払い機、製材機、かんな盤等）、安全な用具使用（ナタ、鋸等）、実習時の水分補給などを生徒に常に意識させるよう働きかけを怠らないようにしたい。
インテリア	<ul style="list-style-type: none"> ・実習などの安全面については常に生徒への徹底や機械整備を怠らず事故0を続けていく。

生徒による授業評価 各教科のまとめ【定時制】

1 分析した内容（教科毎の集計、自由記述から等）

<ul style="list-style-type: none"> ・予想した内容、アンケート結果で、偏った結果ではなかった。 ・定時制全体で見ると、全般的に昨年と比べて「普通」と回答している割合が多い。 ・Q1「授業に意欲的に取り組んでいますか。」および、Q2「授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。」に対しては、「そう思う」「ほぼそう思う」の回答が昨年より5%程度減少し、また、Q2に対しては、「あまりそうは思わない」「そう思わない」が12%で昨年より5%増加している点が気がりである。さらに、Q3「問いかけや小テストなど理解を確かめながら授業が進められていますか。」に対しては、「そう思う」「ほぼそう思う」が昨年より14%減少しており、教科ごとに差はあるにせよある程度の改善が必要と思われる。 ・Q4「授業の難易度は適切ですか。」に対しては、「難しい」が11%減、「やや難しい」「ちょうどよい」の合計が22%増、Q5「授業の進む速さは適切ですか。」に対しては、「速い」が15%減、「やや速い」「ちょうどよい」の合計が14%増と、昨年と比べて生徒の実態に合わせた内容、速さになっていると思われる。 ・自由記述の中に、一部の生徒がうるさいために、集中できないとの内容があり、今後注意して授業に取り組みたいと考えている。
--

2 今後の授業で改善したほうがよい点等

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味、関心をもてそうな、わかりやすい教材を扱っていく必要がある。 ・技術的な学習内容について、一段階一段階丁寧に進めていく。 ・生徒に発表、表現させる機会をもっと多くしたい。 ・特に、話すことのチャンスを与えたい。 ・見たり聞いたりする機会はあると思うが、「読み」の機会が不足しているので、新聞等の記事を導入に使った授業をしたい。

【まとめ】

このアンケートの最大の目的は授業の改善にあります。授業は生徒と教師、一緒に作るものです。このアンケートを通じて、どの学年・どの学科・どのクラス・どの講座でも「授業第一主義」であることを互いに再確認し、家庭学習も含め、より一層の自律的な学びを目指すよう努力しています。